

## 平成 22 年度 日野高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

学校長は特性（総合学科）を生かし、地域に貢献できる人材の育成を目標にし、「日野高ショップ」や地域の事業を行うなど地域との連携に力を入れた学校づくりをめざし、学力向上、生徒指導を行っている。また、生徒の人間関係づくりのために QU を実施したり、「改善指導カード」を導入したりして生徒指導体制を整備している。このように、学校目標の中に重点目標を掲げ、それに向けての取組、努力の成果が見受けられ、総合学科高校としての底力もあるので期待する部分は大きいにある。

一方、学力面では生徒の基礎・基本の定着が課題と思われる。教職員の授業研究など日常的な努力による授業力向上が不可欠である。また、仕事の基礎になる手順書はだれでもいつでも対応できるようにさらに充実させる必要がある。聞き取りの中で、生徒の心の闇・痛みにも踏み込んで行く学校長の姿勢に苦悩が滲み出ている。今後の学校長のさらなる指導力を期待したい。

以下は、委員会として高く評価し、今後も継続していただきたい事項である。

- ① 学校の重点目標をきちんと打ち出し、達成に向けて日々の活動の努力が見受けられる。
- ② 学校長は各方面と連携し、学校の実態に合ったビジョンを適確に設定、実践している。
- ③ 実習などで社会人の積極的な活用を行い、社会への足がかりを進めている。
- ④ 人間性を高めるための HR 活動、総合的な学習の時間、学校行事を体系的に実施している。
- ⑤ 生徒の問題行動に対する迅速な動き、教職員への周知徹底など、学校全体の生徒指導に取り組む体制を整備し、家庭との連携も良好で、きちんと機能している。
- ⑥ 学校保健の体制が確立され、観察、日誌への記録、管理職への報告等、生徒の日常の健康管理は評価できる。
- ⑦ 生徒・保護者へのアンケートの実施で学校の現状を把握し、それを自己評価の目標設定、教育活動の改善に役立てている。
- ⑧ TEASⅡの導入により、生徒・教職員の環境に対する意識が高く、実践もしている。
- ⑨ 授業参観をしてみて、日野高校卒業生は誰もがコンピュータが使えること、家で介護ができること、基本的な漢字の読み書きができることなど、具体的な事柄について授業が行われており、指導にきめ細かい面もあると感じた。
- ⑩ 1年次に習熟度別授業（英・数・国）を行うなど、入学時の生徒の学力的な困難を克服する努力が行われている。
- ⑪ 学校の特色のひとつである郷土芸能を伝承する取組が積極的に行われ（小学生、中学生へのアプローチ等）、地域に密着しようとしている。
- ⑫ 学校長の日々の努力により、教育委員会との連携がよく取れていると感じた（学校長の大きな任務である）。

また、以下は、今後改善していただきたい事項である。

- ① 学校長は、個々の教職員の授業力向上には機会を捉えてさらに力を入れてほしい。
- ② 卒業後を見越して、生徒の基礎的・基本的な学力定着のための具体策立案が必要である。
- ③ 生徒の基礎的な学力を向上させるために、教職員の授業力アップの研鑽が必要である。
- ④ 報告・実践記録の整備、安全点検手順や規定類等の 5W1H に配慮しての文書化をし、誰でも対応できるようにする必要がある。さらに、既にあるものを見直し、改訂版の作成等、充実させる必要がある。
- ⑤ 生徒の通学範囲が広いので、保護者の PTA 活動の積極的参加を働きかけたい。
- ⑥ ほとんど教室を移動する授業だが、人間関係を深めるために、教室のロッカーの整理や掲示の工夫など、学級の教室をもっと大事にする必要がある。
- ⑦ 生徒指導は学校生活全体で行う必要がある（授業中の生徒の服装、言葉遣い、態度等の指導）。
- ⑧ 学校全体にもう少し活力がほしい。生徒会活動を活性化させて、また、教職員の積極的なサポートで学校の雰囲気盛り上げて、生徒に誇りを持たせたい。
- ⑨ 組織運営面で、校務分掌図の作成、文書管理の在り方についての検討を要する。